

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

昔取った杵柄 今こそ生かそう

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利さん



昔取った杵柄きじょうにほこりがかぶってやしませんか。後に続く私たちにその力をちょっと貸してください——これは、

人生の大先輩の知恵と経験を受け継ぎ、次の世代により形で渡したいという「悠悠と。」第1号に書いた創刊の思いです。

「昔取った杵柄」とは、よく耳にする言葉です。杵は臼と共に脱穀などに用いる道具で、古くから使われていました。今は餅つききの道具としておなじみですが、杵柄はその杵の柄の部分のこと。かつては脱穀や餅つきが一般的だったでしょう。しっかりと習い覚えた技は年をとっても衰えないことを言います。

第一線を退いた方が、「俺はまだまだできる」「長年鍛えた俺の技を生かせないか」と思うのは当たり前のことです。人手不足が叫ばれている今、それを生かさない手はありません。

少し前、東京デイズニードに行った友人からシニアが結構働いていて驚いたという話を聞きました。ここでは、掃除をする人も楽しそうにあなたも踊っているように振る舞い、来場者にしばしの間、現実——帰宅したら掃除が待っている——を忘れさせ

ると聞いたことがあります。それは、「夢を提供する場所」だからだそうです。

その華やかな世界にシニアがいるとじむさいと感じる人がいるかもしれませんが、彼らは実に生き生きと、笑顔いっぱい働いていて全くそう感じなかつたそうです。彼らはゲスト(来場者)に対してキャストと呼ばれる従業員で、採用条件は年齢不問、多くの応募者の中、その人となりや笑顔がいいという条件を認められて採用されました。結果、豊富な経験や礼儀正しさで重宝されています。

定年を迎え、まだ働きたい

と思う人はたくさんいますが、働く場はそれほど多くなく、かつて培ってきた技術や経験を生かせる職場を見つけるのは至難の業です。

しかし昨今、就職情報誌やネットの求人サイトでもシニア募集の件数が驚くほど増えています。自分が「何をやりたいか」「何ができるか」より、相手が「何を求めているか」が大切なのだと思えます。経済的な面でも生きがいの面でも笑顔で活躍できる場を見つけたいものですね。

ただし、一つ注意が必要です。技や経験を生かすのはよいのですが、決して過去の役割を思い出して命令口調になったり、年齢をかさにきて人にやらせるだけになったりしないことです。

ここまで書いてきて、ふと昔取った杵柄と呼べる技のない私は一体どうすればいいのか、心配になりました。